



©GCA, Inc. - 1508201

「今朝咲きし くちなしの又 白きこと」 (星野立子)

梅雨の花と言えば、あじさいを思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。

左の「くちなしの花」(歌で聞いたような・・・)も梅雨を代表する花です。純白の花びらと、甘い香りが特徴的です。上の句はくちなしの花の美しさに感動し、詠われた句です。あなたのご近所の庭にも咲いていませんか。

子どもの規範意識をどう育てるか

「最近の子どもたちは規範意識が低い」とよく言われます。本当なののでしょうか？また、どうしたら規範意識を育てることができるのでしょうか。

次の2つの話から考えてみましょう。

・・・彼は小さい頃、お父さんについてタバコ屋さんに行きました。その時、5千円札を一枚出したところ、おつりとして8千円と小銭が返ってきました。「お父さん、おつりが多いやんか。おばちゃん、間違えてはるで」と言うとお父さんは彼を殴りつけ、「余計なことを言うな。黙ってたら分からへん」と言い放ったそうです。ちなみに、お父さんのこの行為はつり銭詐欺で刑法上の罪に問われます。この経験が少年の人格の根っことなって、後には彼は万引きを繰り返し、最後はひったくりを行って被害者に怪我を負わせたために「強盗致傷罪」に問われました。お父さんは「おまえには十分に小遣いを与えていたはずだ」と彼に怒りをぶちまけていましたが、もともとは「ばれなければいいんだ」と自分が5千円をごまかしたことがきっかけなのです・・・。

・・・万引きをしたわが子を叱ったお父さんの話です。バケツに3杯水をくんで、自分が2杯かぶって子どもに1杯かけて、風呂場に連れて行って「ごめんな、寒いだろう」と拭いてやったという実例があります。2度と万引きをしませんでした。子どもに水をかけるという厳しさがありました。でも風呂場に連れて行って拭いてやるという優しさもありました・・・。

いかがでしょうか？親の関わり方で子どもが変わったという例です。

子どもに規範意識を身に付けさせることは、そんなに難しいことではないのだと思います。子どもが間違っていたら「いけない」と叱ることが大切です。しかし、規範意識を身に付けさせる一番の方法は、**親や大人が子どもに正しい姿を見せること**なのです。「子どもは親の鏡」と言われるように子どもは親の姿を見ることで変わります。

生まれた時から悪い子どもはいません。もし、成長して罪を犯すようになったとすれば、それは親や大人の関わりが悪かったということになります。

学校において道徳の時間をとおして道徳性を養うことも大切ですが、ご家庭でお父さんお母さんが規範を教えることがもっとも大切なことです。親や大人の責任というものは本当に重たいものですね。